

## 第5次ふじのくにユニバーサルデザイン行動計画 評価書案(総括評価)

指標名	基準値 2016 (H28)	目標 2021 (R3)	現状値 2020 (R2)	進捗状況		今後の方向性	担当部局	
				評価区分	第5次計画期間内における主な取組			
<b>誰もがお互いに思いやり共生する社会づくり【ハート】</b>								
成果指標 維持目標以外	困っている人を見かけた際に声をかけたことがある県民の割合	25.3%	33.3%	33.0%	A	行動計画(ハート施策)に基づき、ユニバーサルデザインを理解する講座等を実施するとともに、企業・団体等の取組事例に関する情報発信を行った。また、障害のある方への「声かけサポーター」の養成や、援助が必要な方に見える化する「ヘルプマーク」の配布などにも取り組んだ。そのほか、オリパラ都市ボランティア等を対象とした「心のUDプラス実践講座」の実施、新型コロナウイルス感染症に起因する誹謗中傷・差別防止を行った。オリンピック・パラリンピックを契機とした共生社会実現に向けた機運醸成の高まりのもと、「困っている人を見かけた際に声をかけたことがある県民の割合」は、概ね目標値の水準を維持している。	人々が多様性を認め合い、高齢化の進行や障害のある人の社会参加、デジタル化の進展といった社会の変化に即した地域づくりを進めるためには、ユニバーサルデザインの推進が必要である。また、「誰一人取り残さない」という考えのもとで取組を求められるSDGsの面からも、その重要性が高まっている。このような観点から、県の施策においてユニバーサルデザインを推進するとともに、広報や講座実施を通じてユニバーサルデザインの周知と「心のUD」の促進を図る。	くらし・環境部
活動指標 維持目標	ユニバーサルデザイン出前講座実施回数	30回	毎年度 30回	30回	○	小中学校を中心に「ユニバーサルデザイン出前講座」を実施し、理解の促進を図った。新型コロナウイルスの感染拡大による小中学校等の臨時休業に伴い、2020年度は申込数が減少したものの、毎年度30回以上実施し目標を達成している。また、出前講座とは別に、2019年度からオリパラ都市ボランティア等を対象として、心のUDを実践する講座を促進した。	ユニバーサルデザインの理念の普及に向け、出前講座を実施するとともに、「心のUD」を促進するため、コロナによる誹謗中傷だけではなく、その他の誹謗中傷等にも対応していく。今後はさらに学校や企業においてデジタル化が加速すると考えられることから、オンライン講座や動画配信の方法も取り入れて受講の機会を増やしていく。	くらし・環境部
<b>誰にも優しく魅力的なサービス・情報や製品の提供【ソフト】</b>								
成果指標 維持目標以外	県内企業、団体等のユニバーサルデザインへの取組割合	45.9%	55.0%	(2018) 50.8%	(2018) B	行動計画(ソフト施策)に基づき、「UD特派員」による学生視点での企業等への取材や、オリパラ開催地をはじめとする県内の企業・団体等の取組事例の取材を通じた情報発信などに取り組んだ。2020年度は、新型コロナウイルスの影響で、「UD特派員」の新規募集を休止したほか、出張の自粛により取材活動が制限されたが、新たにユニバーサルデザインの専門家等の投稿を発信した。	企業に対する調査では、ユニバーサルデザインの取組の必要性は約7割が理解しながらも、実践しているのは約5割であった。必要性を理解しながらも、実践につながらない主な理由として、ユニバーサルデザインの取り入れ方が分からない事が挙げられている。今後は、企業・団体等に向けた情報発信に加え、講座の実施により、ユニバーサルデザインへの理解と導入に向けた取組の促進を図る。	くらし・環境部
活動指標 維持目標	工業技術研究所によるユニバーサルデザインに関する研究開発技術指導及び相談の件数	496件/年	500件/年	366件/年	●	工業技術研究所において、ユニバーサルデザインの取組を普及するための講習会を実施するとともに、UD関連の研究開発を行う企業に対する支援として、技術指導と相談を行った。2020年度は、新型コロナウイルスの影響により来客数と現地指導が減った結果、技術指導・相談件数は減少し目標を下回っているが、2019年度は484件であるなど、その他の年度はいずれも500件前後の目標に近い実績で推移している。	しばらく続くと予想されるコロナ禍と、景気の後退に伴う企業の開発意欲の低下から、大幅な件数増加は見込めないが、講習会等を通じて新しい生活様式に適した製品・サービスへの新規事業参入を促すとともに、オンラインによる技術相談等の支援を強化することで、UD関連製品・サービスの開発につなげていく。	経済産業部
<b>誰もが快適で過ごしやすいまちづくり【ハード】</b>								
成果指標 維持目標以外	誰もが暮らしやすいまちづくりが進んでいると感じる県民の割合	49.5%	75.0%	(2019) 53.8%	(2019) C	行動計画(ハード施策)に基づき、県有施設や鉄道駅のユニバーサルデザイン化などに取り組んだ。特に県内オリパラ開催地において、道路や公共施設等のUD化が進んだが、「誰もが暮らしやすいまちづくりが進んでいると感じる県民の割合」は、ほぼ横ばいとなっている。要因としては、障害のある方や高齢者の社会参加の機会が増えたことにより、よりユニバーサルデザインを普及する必要性が高まったことなどが考えられる。	県有施設や公共交通機関、道路等におけるユニバーサルデザイン化へ着実に取り組むことで、誰もが快適に利用し暮らしやすいまちづくりを進めていく。	くらし・環境部
活動指標 維持目標以外	通学路合同点検等に基づく対策実施率	56.3%	100%	85.1%	○	静岡県通学路交通安全プログラムに基づき、児童が安全で安心して通学できるよう、県が管理する道路において、歩道整備のほか、路肩拡幅や路肩のカラー舗装(グリーンベルト設置)、ポストコーンの設置などの安全対策を進めている。静岡県通学路対策推進会議等により対策の進捗管理を行い、令和2年度末時点で、全202箇所のうち、172箇所対策が完了し、目標に向けて順調に推移している。	道路利用者の安全及び快適な通行を確保するため、要対策箇所を整備を進め、令和3年度中の全ての要対策箇所の対応完了へ取り組むとともに、今後は実施した取組の検証を行い安全確保へ取り組んでいく。	交通基盤部